

“水俣病”で正式発表

抽出物質さらけに研究

忽那班長

水俣病の原因を究明している熊本大学医学部水俣病研究班の忽那班長（医学部長）は、二十日、現在までの同班の研究結果として、

“水俣病をおこした毒物はメチル水銀化合物であるが、それは水俣湾内の貝および、新日窒水俣工場スラッシュ（ドロ状の水銀カス）の中から抽出された。しかし摺り

では両抽出物質の構造はわずかに違いがっている”と正式に発表した。

発表全文次のとおり。

水俣病は水俣湾の魚貝類を摂取することにより起こることに間違いないありません。その毒物はメチル水銀化合物であります。貝の乾燥から抽出されたものはメチル水銀

スルフィド（イオウ化合物）でした。また新日窒水俣工場のスラッシュから抽出したものはメチル水銀クロリッド（塩素化合物）でありました。

声明発表後忽那班長は次のように語った。

声明は班全体の総意として発表されるものである。現在の段階で

は、内田教授（生化学）が貝から抽出した物質と、入鹿山教授（衛生学）が工場スラッシュから抽出した物質とは、化学構造式が違っているが、これはまだどちらが正しいとも間違っているともいえない。このちがいの研究は今後の問題である。しかし水俣病をおこした毒物がメチル水銀の化合物であるという点では、両教授をはじめ班員全員に全く異論がない。また両教授が抽出した物質のいずれでも動物実験では水俣病とよく似た症状をおこすことができる。